

福祉機器開発最前線の”いま”

H.C.R.の会場では、特別企画として「福祉機器開発最前線」のコーナーを実施し、研究・開発段階の機器や、最先端技術をこれまで数多く紹介してきました。当時展示された福祉機器は”いま”どのような進化をしているのでしょうか？ 出展で得られたことや、その後の変化を出展企業4社に伺いました。

Q.1

本企画に出展されて、効果や成果はありましたか？

Q.2

本企画に出展されて、思わぬ来場者からの反応や意見などはありましたか？

Q.3

以前出展されてからの変化、今後の製品展開や追加したい機能などはありますか？

キリンホールディングス株式会社

H.C.R.2025出展

エレキソルト カップ ES-B001

エレキソルト スプーン ES-S002

A.1

電気の力で薄味の食事の味を増強^{*}する減塩サポート食器”エレキソルト”は、現在ご家庭での使用を想定した製品として販売しています。業務用としての展開や、提供方法の拡大を計画しており、本企画に出展したことで、医療機関や高齢者施設でのニーズについて確認することができました。また、製品についてのご要望もお伺いすることができ、次の製品開発に活かせるデータを収集することができました。
※体感には個人差があります。

A.2

食事介助の際の使用ニーズ、およびその際に求められる食器形状等のご意見をいただくことができました。また、甘味の増強で使用できないか、味覚障害のある方が使用できないか、流動食で使用できないか等、”電気味覚”の技術の応用についてのご希望やご期待の声を多くいただきました。

A.3

いただいたお声をもとに、”電気味覚”技術でできることの拡大(塩味やうま味の増強だけでなく価値提供)につながる技術開発を行ってまいります。また、ご使用を希望されるシーンが想像以上に広がったため、各使用シーンに適した製品形態も開発していきたいと思っております。



ピクシーダストテクノロジーズ株式会社

H.C.R.2023出展

誰が何の話をしているか直感的にわかる VUEVO(ビューボ)

A.1

展示した時はVUEVOを発売してまだ半年というタイミングで、知名度もまだまだという状況でした。開発最前線で3日間展示させていただき、合計リーフレット約700枚を配布、非常に多くの方にVUEVOを知っていただくことができたことが大きい成果です。また、その中で職場で使用を希望していただいた企業様3社に導入いただくことができました。

A.2

「誰が」話しているか色分けされた方向で分かるUIが面白いというお声が多く聞かれました。会話内容と方向が表示されるのを見て「おお!」と感動してくださる方が多かったのが印象的です。とある方からは「会場内で見た機器の中で一番市場に響く製品と思った」ともコメントをいただきました。

A.3

当事者の方から多くご意見いただきながら様々な機能追加や使用性の向上などアップデートをしています。AIによる要約機能や翻訳機能により、様々な用途で幅広くご使用いただけるようになりました。チャット発信する機能は当初からありましたが、画面を見ていないと周囲の方が気がつかないため、チャットで発言した際、テキストを音声で読み上げる機能を搭載しました。



glafit株式会社

H.C.R.2025出展

四輪型特定小型原動機付自転車 WAKUMOBI

特定小型原動機付自転車 NFR-01Lite

A.1

福祉関連の会社様より特定小型原動機付自転車の利活用について関心を持っていただきました。また、福祉関連業界の皆さんの課題などを伺う事ができとてもよい機会となりました。

A.2

訪問介護に携わる方々の電動アシスト自転車からのアップデートとして特定小型原動機付自転車がよくさそうという意見を数多くいただきました。また、四輪型については、車イスより行動範囲が広がるので乗れるようになると嬉しいという声をいただきました。

A.3

四輪型特定小型原付は製品化に向けて現在開発を進めています。姿勢制御技術があることで、特定小型原付の幅600mmでも横転リスクを低減させることができ、より安定して走行できるのがWAKUMOBIの大きな特徴です。また、Japan Mobility Show 2025にて展示した三輪型特定原付なども含め、新しい電動モビリティの開発を進めています。



WAKUMOBI



NFR-01Lite

株式会社Raise the Flag.

H.C.R.2024出展

SYNCREO(シンクレオ)

A.1

弊社はスタートアップ企業で、展示品は開発段階の実験機でしたが、福祉・行政・企業・団体、当事者等多くの方がブースに足を止めてくださり、製品を知っていただく機会となりました。出展後メディアにも取り上げていただき、会社および製品の存在感を広く発信することができました。さらに、名刺交換をきっかけに協業・連携が始まった事例や、各地での機器展や体験会へお声がけをいただくなど、継続的な関係構築につながっています。

A.2

当事者本人だけでなく、視覚障害のある方のご家族の来場も多く見られました。「このような製品があれば安心できる」「将来に希望が持てる」といった声をいただき、中には涙を流されながら熱心に話を聞いてくださる方もおり、製品が果たす社会的役割の大きさを改めて実感しました。自治体や行政の方々の関心も高く「既存の製品やサービスに変わる何か革新的なものがないかを探していた」といった反応や期待の声も多かったです。

A.3

出展後、視覚障害に特化したマルチモーダルAI機能を新たに追加し、実装しました。また、本出展で得たご意見をもとに、形状や重量についても改良を重ね、実用性の向上を図っています。現在は、実証試験における当事者の声を反映しながら、自立支援に資する真に役立つ製品となることをめざし、社会実装を見据えた検証・開発を進めており、2026年度末の発売をめざしています。

